

長崎県平戸市伝・三浦按針墓出土の人骨

松下真実*・塩塚浩一**・松下孝幸***

【キーワード】：長崎県、近世人骨、土坑墓、坐葬、男性、伝・三浦按針墓、保存不良

はじめに

平戸市大久保町崎方公園内に所在する伝・三浦按針墓周辺の発掘調査が2017(平成29)年度におこなわれた。今回の発掘調査は、2020年に三浦按針(ウィリアム・アダムス)(1564-1620)没後400年を迎えるのに伴い、按針の墓と伝えられ、墓石が立っている場所が本当に三浦按針の墓の可能性があるのかを検証するためにおこなわれた調査である。



調査区全景

ウィリアム・アダムスは、1564年イギリスのジリングムで生まれた。1598年、アダムスは、ホープ号の航海士として、リーフデ号を含む5隻の船団で極東を目指し、ロッテルダムを出航した。航海は困難を極め、5隻のうちアダムスが乗るリーフデ号のみが関ヶ原の戦いの半年前、1600(慶長5)年に豊後(大分県)臼杵に漂着した。その後、徳川家康の元で外交顧問として仕え、2隻の西洋船を建造し、家康から領地と「三浦按針」という日本名を与えられ、帯刀を許され、「青い目のファースト・サムライ」となった。1620(元和6)年に55歳で死去したアダムスは、終焉の地である平戸の外人墓地に葬られたといわれている。

その後、平戸領主松浦鎮信のキリスト教弾圧に伴い、外人墓地は破壊され、オランダ商館も破壊された。外人墓地は消滅し、今も所在地はわかっていない。外人墓地が一掃された際、多くの遺骨は掘り起こされ、海中に投棄されたという。

また、伝・三浦按針墓が存在する崎方の民家には、ひそかに三浦按針の遺骨の一部を譲り受けて埋葬したという口伝があり、実際に貴人の墓として守られてきた墓が存在する。1931(昭和6)年にその墓が発掘され、「頭部の骨片、肩骨・脊骨・肋骨・大腿骨などの骨片多数、白歯1本、土器片1個、腐蝕した釘30個」が出土したという(宮永、1977)。

今回、発掘調査がおこなわれたのは2ヶ所で、そのうちの第1号墓は伝・三浦按針墓から南西に約5m離れた場所で、第2号墓は伝・三浦按針墓の下から検出された。

長崎県での近世人骨の調査例は少なく、長崎市の野中墓地(松下・他、2018)、松浦市の楼階田遺跡(松下・他、1985)と田原遺跡(佐伯・他、1991)、五島列島の新上五島町に所在する白浜遺跡(松下、1996a)ぐらいしかない。

今回、検出された人骨は、保存状態が悪く、残存量も少ないので、詳しい形質的特徴を明らかにすることはできなかったが、現場で人骨の出土状況を観察し、人骨については人類学的観察と計測をお



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the grave presumed to be Miura-Anjin tomb, Hirado City, Nagasaki Prefecture)

こなったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

伝・三浦按針墓の下から骨1点と壺1点が出土した(第2号墓)。この骨は、ウシの椎骨の一部であった。また、壺からは骨の細片が検出されたが、これもおそらく獣骨の細片と思われる。その下層からは磁器製の壺が1個出土し、中から人骨が検出された。人骨の量は少ないが、後述している所見から男性骨である。伝・三浦按針墓から約5m南西の地点から1基の墓(第1号墓)が検出されたが、遺構の上部で磁器が確認され、墓坑から1体の人骨が出土した。埋葬姿勢は坐位で、被葬者は男性である。

本遺跡から出土した2体の人骨は、考古学的所見から近世に属する人骨である。出土した人骨は表1に示すとおり、2体とも男性骨である。各骨の残存状態は図2に示すとおりで、遺存状態は悪い。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法(前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測)で計測し、鼻根部については鈴木(1963)の方法で計測をおこなった。なお、年齢区分は表3に示した。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
2	0	0	0	2

表2 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
第1号墓人骨	男性	壮年	坐葬
第2号墓人骨	男性	熟年	改葬(伝・三浦按針墓)

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996b)を参照されたい。

なお、放射性炭素年代（AMS）の測定結果は以下のとおりである。海洋リザーバー効果の補正はおこなっていないが、DNA 分析の際には補正をおこなった。

人骨番号	$\delta^{13}C$ (‰)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代（校正年代） 2σ (95.4%確率)
1号墓人骨	-18.94	780 ± 30	cal AD 1210-1280 (95.4%)
2号墓人骨	-18.97	410 ± 30	cal AD 1430-1522 (82.8%) cal AD 1578-1582 (0.5%) cal AD 1590-1620 (12.1%)

所見

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

第1号墓人骨（男性・壮年）

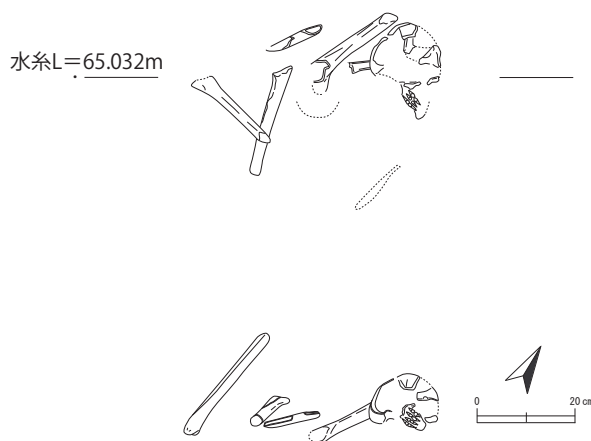
崎方公園内の伝・三浦按針墓から南西にある歩道下から出土した。埋葬遺構は土坑墓。平面プランはほぼ円形。埋葬姿勢は坐位で、顔の向きは西である。膝関節を曲げ、膝は立てられていたようであるが、腐敗中に膝は崩れたと思われる。頭蓋は右側を下にした状態で下肢骨の東側から検出された。



1号墓調査状況



1号墓人骨出土状況



1号墓人骨実測図

人骨は前日からの大雨で、水分を吸収しており、かなり脆弱な状態であった。埋土も水分を含んでおり、人骨の検出は困難であった。残存していたのは頭蓋、右側の上腕骨、左右の大腿骨、左側の脛骨および左側の腓骨の一部であったが、腓骨は泥化しており、骨が残存していたことを確認することができずに過ぎない。

墓坑の上部からは完形の茶碗（景德鎮窯染付碗）1個と銭片2点、釘3点が出土している。

第2号墓人骨（男性・熟年）

伝・三浦按針墓の下層から出土した磁器製の壺から検出された人骨である。1931(昭和6)年に改葬された際に残っていた人骨の一部の可能性はある。残存していた人骨は、頭蓋、下顎骨、大腿骨、脛骨の一部と骨片のみで、残存量は少ないが、骨の保存状態は比較的良好で、骨質は堅牢である。



2号墓（伝・三浦按針墓）



2号墓人骨出土状況

II. 人骨の形質

第1号墓人骨（男性・壮年）

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

前頭骨と側頭骨、後頭骨の一部が残存していた。保存状態は悪い。前頭結節はやや発達しており、乳様突起はかなり大きい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、冠状縫合と矢状縫合の一部が観察できた。両縫合とも内外両板は開離している。脳頭蓋の計測はできない。観察によっても頭型は推測できない。また、前頭縫合が認められる。

(2) 顔面頭蓋

右側頬骨と上顎骨が残存していた。保存状態は悪い。眉上弓はやや隆起している。鼻骨と鼻根部は扁平である。顔面の計測は鼻根部のみができた。鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が(17)mm、鼻根横弧長は(18)mmで、鼻根彎曲示数は(94.44)となり、鼻根部はかなり扁平である。

下顎骨は、右側下顎枝と下顎体の歯槽部が残存していた。保存状態は悪い。下顎枝は幅広く、下顎切痕は浅い。



2号墓人骨出土状況（拡大）

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりすべての歯が残っていた。

8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

咬耗度は Broca の1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。歯の咬合形式は不明である。なお、上顎の中切歯と側切歯は強いシャベル型である。

3. 四肢骨

上腕骨、寛骨、大腿骨、脛骨が残存していた。

①上腕骨

右側の骨体が残存していた。骨体は大きく、三角筋粗面の発達も良好で、骨体は扁平である。

計測値は、骨体最小周が62mm(右)、中央周が72mm(右)で、上腕骨は大きい。中央最大径は24mm(右)、中央最小径が17mm(右)で、骨体断面示数は70.83(右)となり、骨体は扁平である。

②寛骨

腸骨体の一部が残存していた。保存状態は悪く、大坐骨切痕および耳状面前溝の観察はできない。

③大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪い。長さは短く、骨体はやや大きい。粗線の幅はやや広いが、粗線と骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央周は(86)mm(右)、84mm(左)で、大腿骨はやや大きい。骨体中央矢状径は27mm(右)、26mm(左)、中央横径は27mm、(左右)で、骨体中央断面示数は100.00(右)、96.30(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体上横径は33mm(右)である。

④脛骨

左側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。骨体は細く、ヒラメ筋線の発達はやや良好である。骨体の断面形はヘリチカのV型(後面が卵円形)を呈している。

計測値は、骨体周が75mm(左)、最小周は71mm(左)で、脛骨はやや細い。中央最大径は27mm(左)、中央横径が20mm(左)で、中央断面示数は74.07(左)となり、骨体には扁平性は認められない。

4. 性別・年齢

性別は、眉上弓がやや隆起し、乳様突起も大きく、上腕骨体の径が大きく、大腿骨の径もやや大きいことから、男性と推定した。年齢は、観察できた冠状縫合と矢状縫合の内外両板がまだ分離していることから、壮年と思われる。

第2号墓人骨(男性・熟年)

1. 頭蓋

頭頂骨の矢状縫合付近と右側側頭骨の一部、後頭骨から左側頭頂骨にかけて残存していた。保存状

態は悪いが、骨壁は厚い。外後頭隆起はそれほど突出はしていないが、項平面が窪んでいるので、外後頭隆起部の発達良好にみえる。また、最上項線はきわめて明瞭で、稜線を形成しており、外後頭隆起から最上項線はきれいに整っている。このような形態はきわめて珍しい。乳様突起及び外耳道は観察できない。縫合は、ラムダ縫合の左側部が観察できた。内板は癒合閉鎖しているが、外板は明瞭でまだ開離している。冠状縫合と矢状縫合と思われる縫合部分では内外両板が閉鎖しているようである。頭蓋の計測はできない。

下顎骨は、下顎体の一部が残存していたが、保存状態は悪い。底部は破損しているが、オトガイは突出していたようである。下顎骨の径はあまり大きくないようである。

2. 歯

遊離歯冠が1個残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

$\begin{array}{cccccccc} // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \end{array}$	〔○：歯槽開存 /：不明(破損)〕
$\begin{array}{cccccccc} // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \\ // & // & // & // & // & // & // & // \end{array}$	〔○：歯槽開存 /：不明(破損)〕

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大白歯、7：第二大白歯、8：第三大白歯)

咬耗度は Broca の1度(咬耗がエナメル質のみ)である。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

右側寛骨、大腿骨、脛骨が残存していた。

①寛骨

右側の坐骨切痕部の一部が残存していた。遺存部分は小さく、坐骨切痕および耳状面前溝の観察はできない。

②大腿骨

両側の骨体後面が残存していた。保存状態は悪く、計測はできない。粗線は幅広く、発達も良好だったようで、左側骨体の残存部分から推測すれば、骨体の径はかなり大きかったことが予想される。また、殿筋粗面の発達も良好である。

③脛骨

左右の骨体後面の一部が残存していた。保存状態は悪く、計測はできない。また、骨体の径や骨体の断面形は不明である。右側後面ではヒラメ筋線の一部の観察ができた。この部分から推測すればヒラメ筋線の発達は良好だったようである。

4. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好で、大腿骨の径が大きく、粗線や殿筋粗面の発達も良好であることから男性と推定した。年齢は、冠状縫合と矢状縫合の内外両板が癒合し、ラムダ縫合では内板は閉鎖し外板は開離していることから、熟年と思われる。

考 察

1. 第2号墓から出土した人骨は日本人の遺骨か、西洋人の遺骨か

今回、三浦按針の墓といわれている地点から人骨が出土した。この人骨が三浦按針の遺骨かどうかを含めて、日本人の骨なのか、それとも西洋人の骨の可能性のあるのかを検討してみた。東洋人か西

洋人かは、上顎骨前頭突起が残っていれば、判別が可能であるが、今回出土した人骨群の中にはこれが存在しない。残っていた頭蓋は脳頭蓋のみで手がかりはきわめて少ない。この頭蓋の際だった特徴は、外後頭隆起部から後頭骨乳様突起に向けて走る最上項線の様態である。外後頭隆起は極端に突出する形態はしておらず、項平面が凹み、最上項線が明瞭で、外後頭隆起からすっきりした隆線が走っており、項平面との境を形成している。近世人の武士層では外後頭隆起が著しく突出している。これは男女に共通してみられる特徴で、上肢筋が日頃から鍛えられていたことを物語っている。本例にはこうした武家層の特徴はみられない。これほど端麗な外後頭隆起から走る最上項線は珍しい。また、大腿骨は、骨体の径が大きく、柱状性を呈していたことをうかがわせる大腿骨である。近世人の大腿骨にこのような特徴がみられることは稀である。後頭骨と大腿骨の特徴から、この人骨を非日本人の遺骨と想定してもおかしくはないが、同時に、残存量が少ない人骨片からこの人骨を西洋人の遺骨と断定できる積極的な根拠もみいだせない。検出されたこの墓の埋葬遺構は長方形で、伸展葬だったと思われ、釘が出土していることから寝棺が使用されたようである。壺に入っていた人骨がこの遺構から出土した人骨であるとすれば、遺構の形態と人骨形質から、西洋人の可能性が強い。

人骨の形態的研究のほかに今回DNA分析をおこなった。ミトコンドリアの解析結果は別項のとおり、ハプログループ「H1e2b」を示し、被葬者はヨーロッパ人であることが判明した。

しかし、この墓が三浦按針を埋葬した墓であるという確証が得られていないので、もしこの骨が西洋人の遺骨としても、現時点で、三浦按針の遺骨であると特定することは、まだできない。

2. 第1号墓人骨の四肢骨の比較

第1号墓人骨の放射性炭素年代は海洋リザーバー効果の影響で、古い年代値が得られているが、墓の形態や副葬品から近世墓の可能性が高いとみられるので、ここでは近世人骨として検討した。

長崎県では、保存状態が良好な近世人骨の出土例は少なく、比較資料はきわめて少ない。よって長崎県内と北九州の近世人骨の資料と比較した。

1) 上腕骨

表4は上腕骨の比較表である。1号墓人骨の中央周は72mm(右)で、表4では最大値となり、上腕骨の径がかなり大きいことがわかる。骨体断面示数は70.83(右)で、表4では最小値となり、骨体はかなり扁平である。すなわち、本上腕骨は大きく扁平な上腕骨で、上肢筋をかなり酷使していたようである。

2) 大腿骨

表5は大腿骨の比較表である。骨体中央周は86mm(右)で、桜楳田(98mm)、上清水(88.50mm)に次いで大きく、大腿骨は近世人としては大きい方である。中央断面示数は100.00(右)で、上清水(91.51)、京町(98.98)よりは大きい、その他の資料より小さく、骨体両側面の後方への発達はそれほど強いものではない。

3) 脛骨

表6は脛骨の比較表である。骨体周は75mm(左)で、表6では開善寺に次いで小さく、骨体は細い。中央断面示数は74.07(左)で、京町第3(75.43)、開善寺(74.34)に次いで大きく、骨体には扁平性

は認められない。すなわち、大腿骨の大きさの割には脛骨の骨体は細いという特徴がみられる。

要 約

長崎県平戸市大久保町崎方公園内に所在する伝・三浦按針墓周辺の発掘調査が2017(平成29)年度におこなわれ、2基の墓(第1号墓、第2号墓)から、2体の人骨が出土した。保存状態は悪かったが、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 第1号墓は伝・三浦按針墓から南西に約5m離れた場所で検出され、第2号墓は伝・三浦按針墓の下層から検出された。
2. 第1号墓からは埋葬状態の人骨が検出された。被葬者の埋葬姿勢は顔を西に向けた坐位で、その埋葬様式は我が国の近世にみられる坐葬である。被葬者は壮年の男性である。
3. 第2号墓は伝・三浦按針墓の下から検出された埋葬遺構であるが、礫群の下層から磁器製の壺が出土し、その中には改葬された人骨が入っていた。この墓の下層を精査したところ長方形の墓坑が確認された。人骨は熟年の男性骨である。
4. この2体の人骨は、考古学的所見から、近世(江戸時代)に属する人骨と推測される。
5. 第1号墓人骨(男性)の頭蓋は保存状態が悪く、頭型や顔面の形態的特徴を知ることはできなかったが、鼻根部はきわめて扁平であった。上腕骨の中央周は72mm(右)もあり、骨体は大きく、三角筋粗面の発達も良好であった。また、骨体断面示数は70.83(右)で、骨体は扁平である。大腿骨の骨体中央周は(86)mm(右)、84mm(左)で、大腿骨はやや大きい。上腕骨の太さに比べるとそれほどでもなく、骨体中央断面示数は100.00(右)、96.30(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体上部は扁平である。脛骨の骨体周は75mm(左)で、骨体はやや細く、中央断面示数は74.07(左)となり、脛骨には扁平性は認められない。
6. 第2号墓人骨(壺・男性)の残存量は少なく、残存していたのは、後頭骨などの大きな破片と寛骨片、大腿骨体片、脛骨体片にすぎない。外後頭隆起は極端に突出してはいないが、項平面が凹み、最上項線が明瞭で、外後頭隆起からすっきりした隆線が走っている。大腿骨は、粗線の発達が良好で、骨体はかなり大きかったことが予想される。
7. 第1号墓人骨(男性)の上顎骨前頭突起の向きは前額方向をしており、鼻根部は扁平で、西洋人的特徴はまったく認められない。また、四肢骨についても近世人の範囲に収まり、近世人としても違和感はない。埋葬様式が坐葬という点でも副葬品からも日本人被葬者と考えると差し支えない。上腕骨が太くて、扁平であるが、その割には大腿骨や脛骨はそれほど太くない。下肢筋よりも上肢筋を酷使する生活様式が想定され、船を漕ぐ労働形態か、武道をおこなっていた生活様式が推測される。
8. 一方、第2号墓人骨(男性、壺出土)の後頭骨の最上項線の走り方には日本人にはまれな様相がみられる。大腿骨体の径もかなり大きそう。近世人の大腿骨は一般的にやや細いことと異なる特徴もみられる。また、検出された墓坑は坐葬を示す円柱形ではなく、平面形が長方形の直方体であることから、寝棺の使用が想定され、埋葬姿勢は仰臥の伸展葬だったと考えられる。近世では、伸展葬で埋葬されるのは西洋人か、キリスト教信者(キリシタン)に限られる。この第2号墓に埋葬されていた人物は人骨形質と墓坑形態から、西洋人の可能性が強い。人骨のDNA分析(ミトコ

ンドリア)をおこなったところ、ハプログループ「H1e2b」を示し、被葬者はヨーロッパ人であることが判明した。

また、墓標が立てられていた第2号墓は、埋葬遺構が寝棺であることや壺から検出された人骨の部位が1931(昭和6)年に改葬された際の記載(寝棺、残存人骨の部位)とほぼ一致することから、本地点が昭和6年に発掘された墓と思われる。今後、外人墓地の特定など周辺地域の詳細な調査と研究が必要である。

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下孝幸・他、1985: 長崎県松浦市楼階田遺跡出土の近世人骨。楼階田遺跡—松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—(長崎県文化財調査報告書第76集): 191-196.
3. 松下孝幸、1993: 北九州市京町遺跡出土の近世人骨。京町遺跡(北九州市文化財調査報告書第59集): 177-248.
4. 松下孝幸、1995: 北九州市宗玄寺跡出土の近世人骨。宗玄寺跡(北九州市埋蔵文化財調査報告書第172集)502-542.
5. 松下孝幸、1996a: 長崎県有川町頭ヶ島白浜遺跡出土の近世人骨。頭ヶ島白浜遺跡(有川町文化財調査報告書第1集): 67-87.
6. 松下孝幸、1996b: 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集): 24-50.
7. 松下孝幸、2002: 北九州市京町遺跡第3地点出土の近世人骨。北九州市京町遺跡第3地点(北九州市生往寺境内発掘調査報告): 99-140.
8. 松下孝幸、2003: 上清水遺跡VI区出土の近世人骨。上清水遺跡VI区(北九州市埋蔵文化財調査報告書第290集): 53-66.
9. 松下孝幸、2005: 開善寺跡出土の近世人骨。開善寺跡—デオデオ小倉本店建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—(北九州市埋蔵文化財調査報告書第340集): 146-175.
10. 松下孝幸・他、2018: 長崎市中野墓地出土の近世人骨。外海の出津集落墓地調査報告書: 55-64.
11. 宮永孝、1997: ウィリアム・アダムズの埋葬地は平戸か。社会労働研究 第43巻第3・4号: 87-115.
12. 森良和、2020: 三浦按針とその時代。東京堂出版
13. 佐伯和信・他、1991: 長崎県松浦市田原遺跡出土の近世人骨。田原遺跡(竜尾川地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)(松浦市文化財調査報告書第10集): 37-49.70-71.
14. 鈴木 尚、1963: 日本人の骨。岩波書店、東京。

* Masami MATSUSHITA、特定非営利活動法人・人類学研究機構

** Kouichi SHIOZUKA、平戸市文化観光商工部 文化交流課 文化遺産班

*** Takayuki MATSUSHITA、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

表4 上腕骨計測値 (男性、右、mm) (Table 4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	三浦按針墓		白浜		京町		宗玄寺		開善寺		生往寺		上清水	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
5. 中央最大径	24	22.28	112	22.56	57	22.05	10	20.20	18	23.06	11	22.91		
6. 中央最小径	17	17.39	112	16.96	57	17.16	10	15.40	18	17.78	11	17.00		
7. 骨体最小周	62	63.00	89	62.13	49	61.84	11	57.45	17	65.35	8	62.25		
7(a). 中央周	72	66.89	112	66.34	57	65.74	10	60.10	18	67.17	11	66.91		
6/5 骨体断面示数	70.83	78.24	112	75.38	57	78.01	10	76.71	18	77.56	11	74.32		

表5 大腿骨計測値 (男性、右、mm) (Table 5. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	三浦按針墓		楼楷田		田原		白浜		宗玄寺		京町		京町第3		開善寺		上清水	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
6. 骨体中央矢状径	27	32(左)	28	27.50	45	26.78	162	26.56	23	26.48	6	26.50	8	26.63				
7. 骨体中央横径	27	28(左)	26	26.19	45	25.93	162	26.99	23	25.83	6	24.83	8	29.38				
8. 骨体中央周	86	98(左)	84	84.88	44	83.41	161	84.91	23	82.30	6	81.17	8	88.50				
6/7 骨体中央断面示数	100.00	114.29(左)	107.69	105.25	45	103.32	162	98.98	23	102.94	6	106.99	8	91.51				

表6 脛骨(男性、右、mm) (Table 6. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	三浦按針墓			田原			白浜			宗玄寺			京町			京町第3			開善寺			上清水		
	1号墓	n	M	1号	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
8. 中央最大径	27 (左)	6	29.19	31	43	28.02	81	28.23	19	27.84	11	26.73	10	28.90	10	28.90	10	28.90	10	28.90	10	28.90		
9. 中央横径	20 (左)	6	21.38	20	43	20.51	82	20.76	19	20.95	11	19.82	10	20.60	10	20.60	10	20.60	10	20.60	10	20.60		
10. 骨体周	75 (左)	6	79.81	85	43	77.02	81	77.07	19	77.05	11	73.09	10	79.40	10	79.40	10	79.40	10	79.40	10	79.40		
10b. 最小周	71 (左)	5	72.73	-	43	70.00	58	70.19	17	70.24	10	66.10	7	70.71	7	70.71	7	70.71	7	70.71	7	70.71		
9/8 中央断面示数	74.07 (左)	6	73.29	64.52	43	73.31	81	73.83	19	75.43	11	74.34	10	71.49	10	71.49	10	71.49	10	71.49	10	71.49		

表7 鼻根部 (男性、mm、度) (Nasal root)

		三浦按針墓 1号墓 男性
50.	前眼窩間幅	(17)
50A.	鼻根橋弧長	(18)
50/50A	鼻根彎曲示数	(94.44)
57.	鼻骨最小幅	7
44.	而眼窩幅	-
50/44	眼窩間示数	-
a.	前頭突起上幅(右)	-
	(左)	-
b.	前頭突起水平傾斜角	-
c.	G-N距離	-
d.	鼻根角	-
e.	G-R距離	-
f.	垂線高	-
f/e	鼻根陥凹示数	-
77.	鼻頰骨角	-
Fa	fmo間距離	-
Fh	垂線高	-
Fh/Fa	顔面扁平示数	-

表8 下顎骨 (男性、mm、度)(Mandibula)

		三浦按針墓 1号墓 男性
65	下顎関節突起幅	-
65(1).	下顎筋突起幅	-
66	下顎角幅	-
67	前下顎幅	-
68	下顎長	-
68(1).	下顎長	-
69	オトガイ高	-
69(1).	下顎体高(右)	-
	(左)	-
69(2).	下顎体高(右)	-
	(左)	-
70	枝高(右)	-
	(左)	-
70(1).	前枝高(右)	-
	(左)	-
70(2).	最小枝高(右)	-
	(左)	-
70(3).	下顎切痕高(右)	15
	(左)	-
71(1).	下顎切痕幅(右)	39
	(左)	-
71	枝幅(右)	-
	(左)	-
71a.	最小枝幅(右)	-
	(左)	-
79	下顎枝角(右)	-
	(左)	-
66/65	下顎幅示数	-
68/65	幅長示数	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-
69(2)/69	下顎高示数(右)	-
	(左)	-
71/70	下顎枝示数(右)	-
	(左)	-
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	-
	(左)	-
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	38.46
	(左)	-

表9 上腕骨 (男性、mm) (Humerus)

		三浦按針墓 1号墓 男性
1.	上腕骨最大長(右)	-
	(左)	-
2.	上腕骨全長(右)	-
	(左)	-
3.	上端幅(右)	-
	(左)	-
3(1).	横上径(右)	-
	(左)	-
4.	下端幅(右)	-
	(左)	-
5.	中央最大径(右)	24
	(左)	-
6.	中央最小径(右)	17
	(左)	-
7.	骨体最小周(右)	62
	(左)	-
7(a).	中央周(右)	72
	(左)	-
8.	頭周(右)	-
	(左)	-
9.	頭最大横径(右)	-
	(左)	-
10.	頭最大矢状径(右)	-
	(左)	-
11.	滑車幅(右)	-
	(左)	-
12.	小頭幅(右)	-
	(左)	-
12(a).	滑車幅および小頭幅(右)	-
	(左)	-
13.	滑車深(右)	-
	(左)	-
14.	肘頭窩幅(右)	-
	(左)	-
15.	肘頭窩深(右)	-
	(左)	-
6/5	骨体断面示数(右)	70.83
	(左)	-
7/1	長厚示数(右)	-
	(左)	-

表10 大腿骨 (男性、mm) (Femur)

		三浦按針墓 1号墓 男性
1.	最大長(右)	-
	(左)	-
2.	自然位全長(右)	-
	(左)	-
3.	最大軀子長(右)	-
	(左)	-
4.	自然位軀子長(右)	-
	(左)	-
6.	骨体中央矢状径(右)	27
	(左)	26
7.	骨体中央横径(右)	27
	(左)	27
8.	骨体中央周(右)	86
	(左)	84
9.	骨体上横径(右)	-
	(左)	-
10.	骨体上矢状径(右)	-
	(左)	-
15.	頸垂直径(右)	-
	(左)	-
16.	頸矢状径(右)	-
	(左)	-
17.	頸周(右)	-
	(左)	-
18.	頭垂直径(右)	-
	(左)	-
19.	頭横径(右)	-
	(左)	-
20.	頭周(右)	-
	(左)	-
21.	上頸幅(右)	-
	(左)	-
8/2	長厚示数(右)	-
	(左)	-
6/7	骨体中央断面示数(右)	100.00
	(左)	96.30
10/9	上骨体断面示数(右)	-
	(左)	-

表 11 脛骨(男性、mm) (Tibia)

		三浦按針墓 1号墓 男性	
1.	脛骨全長(右)	-	
	(左)	-	
1a.	脛骨最大長(右)	-	
	(左)	-	
1b.	脛骨長(右)	-	
	(左)	-	
2.	顆距間距離(右)	-	
	(左)	-	
3.	最大上端幅(右)	-	
	(左)	-	
3a.	上内関節面幅(右)	-	
	(左)	-	
3b.	上外関節面幅(右)	-	
	(左)	-	
4a.	上内関節面深(右)	-	
	(左)	-	
4b.	上外関節面深(右)	-	
	(左)	-	
6.	最大下端幅(右)	-	
	(左)	-	
7.	下端矢状径(右)	-	
	(左)	35	
8.	中央最大径(右)	-	
	(左)	27	
8a.	栄養孔位最大径(右)	-	
	(左)	30	
9.	中央横径(右)	-	
	(左)	20	
9a.	栄養孔位横径(右)	-	
	(左)	21	
10.	骨体周(右)	-	
	(左)	75	
10a.	栄養孔位周(右)	-	
	(左)	82	
10b.	最小周(右)	-	
	(左)	71	
9/8.	中央断面示数(右)	-	
	(左)	74.07	
9a/8a	栄養孔位断面示数(右)	-	
	(左)	70.00	
10b/1	長厚示数(右)	-	
	(左)	21.28	

表 12 形態小変異 (Non-metric crania variants)

		三浦按針墓 1号墓 男性	
		右	左
1.	Medial palatine canal	/	/
2.	Pterygospinous foramen	/	/
3.	Hypoglossal canal bridging	/	/
4.	Clinoid bridging	/	/
5.	Condylar canal absent	/	/
6.	Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm)	-	/
7.	Jugular foramen bridging	-	-
8.	Precondylar tubercle	/	/
9.	Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)	-	/
10.	Accessory infraorbital foramen	/	/
11.	Zygo-facial foramen absent	-	/
12.	Aural exostosis	-	-
13.	Metopism		+
14.	Os incae	/	
15.	Ossicle at the lambda		/
16.	Parietal notch bone	/	/
17.	Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/
18.	Asterionic ossicle	/	/
19.	Occipitomastoid ossicle	/	/
20.	Epipteric ossicle	/	/
21.	Frontotemporal articulation	/	/
22.	Biasterionic suture(>10mm)	/	/
23.	Mylohyoid bridging	/	/
24.	Accessory mental foramen	/	-
25.	Mandibular torus	-	-
26.	滑車上孔	/	/

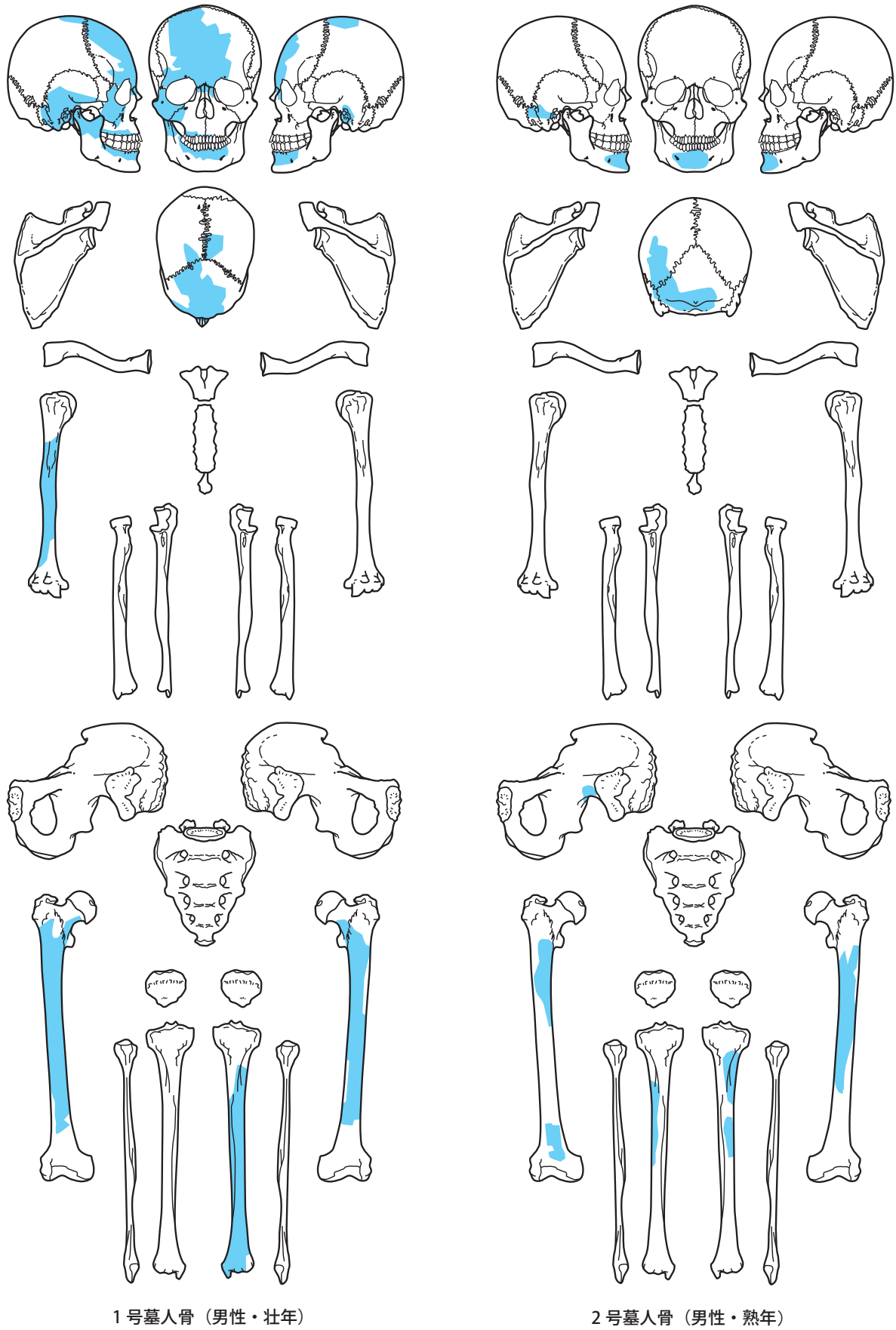


図2 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of Preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋 (The skull)



下顎骨 (The mandible)

三浦按針墓 1号墓人骨 (男性・壮年)

(The skeleton No.1 from the grave presumed to be Miura-Anjin tomb, young adult male)



歯 (The teeth)



四肢骨 (The limb bones)

三浦按針墓 1号墓人骨 (男性・壮年)

(The skeleton No.1 from the grave presumed to be Miura-Anjin tomb, young adult male)



頭蓋後面 (Rear view of the skull)



下顎骨 (The mandible)

三浦按針墓 2号墓人骨 (男性・熟年)

(The skeleton No.2 from the grave presumed to be Miura-Anjin tomb, mature male)



四肢骨 (The limb bones)

三浦按針墓 2号墓人骨 (男性・熟年)

(The skeleton No.2 from the grave presumed to be Miura-Anjin tomb, mature male)